

<特集②>

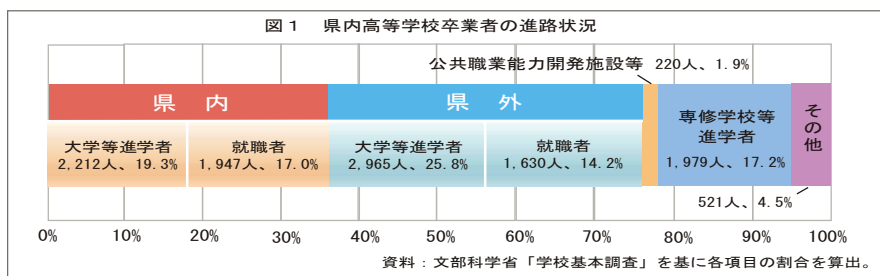
「若者・女性から選ばれる青森県」をめざして

本県の最重要課題である人口減少克服のためには、「若者・女性から選ばれる青森県」を実現する必要があることから、ここでは、若者・女性の県内定着・還流を巡る現状や各種取組を紹介していきます。

1 若者・女性の県内定着・還流を取り巻く状況

(1) 高校生の県外転出

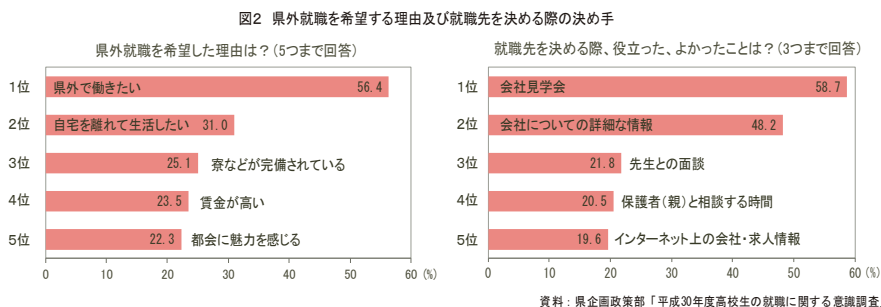
高等学校卒業者のうち、県内に進学・就職した割合は30%代半ばであるのに対して、県外に進学・就職した割合は40%であり、就職・進学を問わず、高校卒業時において高校生の多くが県外に転出していることがわかります。(図1)



(2) 高校生の進路選択に影響を及ぼす要因

県外就職の希望理由は「県外で働きたい」の割合が最も多く、県外給与・福利厚生面の理由を上回っているほか、「自宅を離れて生活したい」や「都会に魅力を感じる」など、県内高校生が首都圏等への憧れから県外就職を希望していることがうかがえます。(図2)

また、高校生が就職先を決める際は、会社見学会や会社に関する詳細な情報を参考にしているだけでなく、先生との面談や保護者との相談を通して自分の就職先を決める傾向があるなど、保護者や教員といった周囲の大人の意向も子どもの進路選択に大いに影響していることが分かります。



(3) 大学生の県内定着・還流

県内大学等卒業者の就職状況を見てみると、2019年は、県内大学等卒業者のうち県内就職内定者は全体の約3割に留まっており、2014年以降、その割合は微減傾向にあります。(表3)

表3 県内大学等卒業者の県内就職内定率

(各年3月卒、単位：%)

	2014(H26)	15	16	17	18	2019(H31)
県内就職内定率	35.2	35.7	34.1	33.2	34.3	31.4

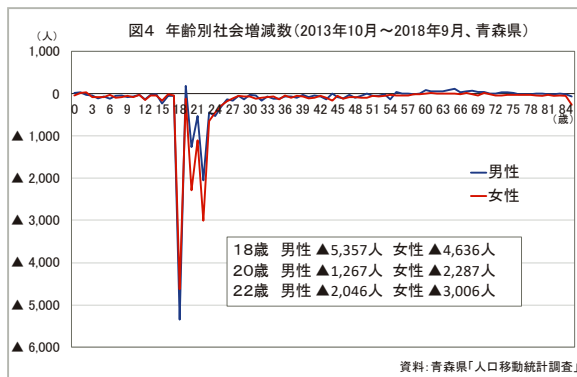
資料：青森労働局「大学等卒業予定者職業紹介状況」

また、若者の県内定着を進める上では、県外大学等に進学した本県出身学生の還流も必要不可欠ですが、本県出身学生に対して県内企業の情報等を届ける機会やネットワークが不十分な状況にあります。

(4) 若者・女性の転出超過

本県は長期にわたり社会減が続き、特に、18歳、20歳、22歳で大幅な転出超過となっていますが、進学や就職を契機とした若者の県外転出が社会減の大きな要因と考えられます。(図4)

中でも、女性の県外転出は出生数の減少につながるなど、将来に渡っての影響が考えられることから、結婚や出産、子育てを経ても、女性がそれぞれのライフスタイルに合わせて柔軟に働き続けられるよう、各業種における働き方の見直しや職場環境の改善、働きやすい環境づくりに取り組む必要があります。



2 今後の取組の方向性

高校生や大学生が県内就職の魅力に気づき、一つの選択肢として検討するよう、積極的に本県の「しごと」と「暮らし」の情報発信を行うとともに、教員や保護者が県内企業に対する理解を深める機会を提供します。

また、県外に進学した学生の還流を促進するための交流会・セミナーや、女性が安心して働き続けられるための環境整備に向けた取組も進めていきます。

3 若者・女性から選ばれる青森を実現するために～令和2年度の主な取組紹介～

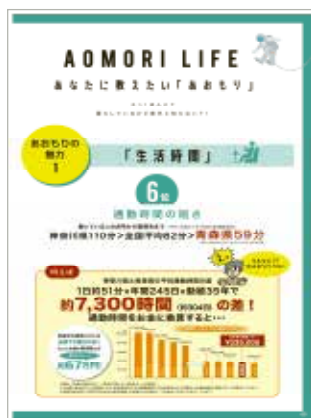
若者・女性から学ぶ場所・働く場所・生きる場所として「選ばれる青森」の実現に向けて、県では、ターゲットに応じてきめ細かに若者・女性の県内定着・還流の取組を進めています。

(1) 「暮らし」と「しごと」の情報発信

本県の「暮らし」や「しごと」の魅力を高校生等にPRするため、首都圏等と比較した際の暮らしやすさ・働きやすさが伝わるような指標や県内の社会人の働く姿などを掲載した冊子「アオモリドラゲナイ」を作成しています。

この冊子を活用し、県職員が県内高等学校等において直接プロモーションを行っているほか、ホームページやSNSを活用した情報発信にも取り組んでいます。また、冊子を授業等で活用してもらうことを想定し、教員向け解説テキストも作成します。

アオモリドラゲナイの内容→



(2) 高校生の県内企業の相互理解の促進

県内企業と高校生が交流する説明会を実施しているほか、実際に高校生が県内企業を訪問の上、企業の魅力について若手社員や採用担当者等に取材し、その内容を他の生徒等に対して発信するなどの取組を進めています。

(3) 保護者や教員向けの地元の魅力・企業の理解促進

保護者・教員向けの県内企業説明会を開催しているほか、関係団体等が主催する会議において、「アオモリドラゲナイ」を活用したPR活動を実施し、保護者や教員に対して本県の暮らしや県内企業への理解促進を進めています。



(4) 学校内における県内就職支援

県内就職を希望する生徒の進路希望を達成するとともに、県内就職率の向上を図るため、就職者の割合が多い県立高校9校に就職支援員を配置し、生徒の希望に応じた県内求人の開拓や進路相談の対応のほか、県内企業との相互理解促進を目的とした企画等を実施します。

(5) 県外大学生等のU I Jターンの促進

県外大学生等が県内で就職活動やインターンシップなどに参加する際、県で交通費の一部を助成しているほか、今後社会人となる高校生やU I Jターン希望者など幅広い世代を対象に、地元企業の情報や就活関連イベント等を紹介する専用アプリ「シューカツアオモリ」を運用しています。

また、本県出身者が多い首都圏等大学との間でU I Jターン就職促進協定を締結し、県内企業のインターンシップ受入支援等に取り組みとともに、本県ならではの暮らしの魅力や本県で働く意義を本県出身学生に伝えるため、首都圏等において本県出身学生と県内若手社会人等が交流する還流促進イベントを実施しています。



↑ 専用アプリ「シューカツアオモリ」



(6) 企業の採用力向上

学生と企業のワークショップを通じて、学生目線・アイデアを踏まえた採用プログラムの作成を支援しているほか、採用力向上を目的とした採用担当者向けのセミナーや企業代表者向けの講演会等を開催しています。

(7) 女性が安心して働き続けられる環境づくり

女性活躍を推進する県内事業所の女性社員等で構成される「あおもりなでしこ」を結成し、本県出身の県外女子学生や県内大学等に通う女子学生との交流会や企業見学会、出張講話を実施しています。

また、土木建築業や農林水産業などを始めとする各分野において、結婚や出産、子育てを経ても本人の希望する形で働き続けられるよう、職場の環境改善に向けた意見交換が行われているほか、様々な現場で活躍する女性社員等の姿を発信し、業界のイメージ向上に取り組むなど、女性の県内定着に力を入れています。



4 青森県を選んだ理由は十人十色～リアルな本音から見える青森県の魅力～

青森県が好きでずっと住み続けている人。家庭の事情でUターンした人。

経緯こそ様々ですが、県内で働き、それぞれの立場から青森県の魅力を感じている人8名に、「暮らす・働く場所として青森県を選んだ理由」と「その選択を振り返っての今の気持ち」について話を聞きました。

<p>金銭的に余裕がなかった我が家は、必ず合格できる国公立に行けという親からの圧力のもと、地元の大学に進学しました。地元に残っている友人や家族と住み慣れた場所で快適な生活を送っているうちに県外へ出たいという考えはなくなり、大学時代に付き合い始めた彼との結婚も考え、地元就職を選びました。都会での暮らしに少し憧れはあるものの、憧れとしてとっておき、旅行にたくさん行きたいと思います。</p> <p>(20代、女性)</p>	<p>ふるさは県外ですが、大学生活を青森市で過ごし、青森ねぶた祭を通して感じた青森市民の「郷土愛」や「ねぶた愛」に感銘を受け、そのまま定住してしまいました。青森県はねぶたに限らず、他県にはない特色ある文化・風土ばかりで、まだまだ可能性に満ち溢れています。伸びしろたっぷりな青森県が日々パワーアップする実感を、実際に住んで・働いて、リアルに感じることができる今の生活に満足しています。</p> <p>(20代、男性)</p>
<p>子どもの頃は田舎過ぎて青森が嫌だった。当時TV局は4つしかなかったし、面白いことはみんな東京だった。でも結婚を機に関東に住んでみると、その喧騒にうんざりした。人が多すぎて目まいがする。そう考えると、青森はちょうどよく田舎。ちょうどよく不便。尖ったオシャレはないけれど、まあるいダサさが心に優しい、そんな、やや不器用な青森県。生き生き愚痴をこぼしながら、気取らず生きるには適しています。</p> <p>(30代、女性)</p>	<p>長男なので、地元に戻って両親を安心させたいという思いもあり、Uターン。結婚し、子どもが生まれてからは、自然環境の豊かさを実感しています。生活に車が必要なこと、冬場は雪が多いのが難点です。最近では青森のおもしろい人たちとの出会いに恵まれ、地域のことや暮らし方のことを語り合う日々を送っています。東京にないものも多いですが、帰ってきてよかったですと思っています。この土地でできることを考えていきたいですね。</p> <p>(30代、男性)</p>
<p>生まれてから大学・就職まで、すべて県内です。就職氷河期の世代で、地方大学から首都圏に就職なんて無理…と思って県内に就職先を選んだというのが正直なところ。ただ、両親がいて、帰るところがあって、居心地の良い青森県を選んだことに後悔はありません。赤飯が甘くないところになんて住みたくない(笑)そして、今度は私自身が娘たちの帰るところになる番です。そのために青森県で暮らしていきます。</p> <p>(40代、女性)</p>	<p>部活漬けで「遊びたい」と大学は東京、就職は「東京は軽い」と地元へ。「何もない」青森も「地域に熱中」し続けてみると、「地球にキチンと立って」働いている人や県外からの様々な「評価」と出会う…。灯台下暗し。“真の発見の旅とは新しい景色を探すことではなく新しい目でみること”と思知らされる。不惑過ぎ知命手前で「見ようとしなかった自分」を発見(笑)。自分の人生のため、こんな素敵な地元を活かさない手はない。</p> <p>(40代、男性)</p>
<p>自分が生まれ、育った青森県で、家族の近くで仕事をしたい、自分の仕事が青森県の発展のためになるのではないかと、ということで地元で就職を選びました。地元で暮らすことは、両親に何かあってもすぐに駆け付け対応することも可能です。</p> <p>自然が豊かで、レジャーもスポーツも近くで楽しめる、そういった環境も魅力でした。都会の便利さも良いですが時間の有効活用や心のゆとり、それが得られたことが地元就職の一番良かった点ですね。</p> <p>(50代、女性)</p>	<p>オヤジにだって大きな夢や野心があった。根拠のない自信と体力だけはみなぎっていた。そんな時は、誰にも気兼ねなく暴れられる都会がいい。そのうち、本当に守りたいものができた。そして、虚飾のない故郷が輝いて見えた。Uターン直後は、退屈な所だと後悔したりもしたが、そんなナマクラを厳しい冬と優しい人たちがもう一度鍛え直してくれたのだと思う。自分で言うのも変だけど、青森に帰ったからたくましいオヤジができたというお話。</p> <p>(50代、男性)</p>

若者・女性から選ばれる青森を実現するために～令和2年度の



主な取組～

生



社会人



移住・U I J ターン就職の促進

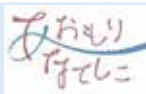
就職連携協定締結
交流会開催
成
県出身者への情報発信



青森県公式就活アプリ
「シューカツアオモリ」

- 先輩移住者の生の声発信（web等）
- 合同移住フェア等の開催
- テーマ別交流イベントの開催

女性活躍の推進、女性が働きやすい環境づくり



定着サポーターズ『あおりなでこ』

- ワーク・ライフ・バランスの推進
- 夫婦の対等なパートナーシップ形成促進
- 建設業等、働く現場の環境改善

- バス旅、動画PR
による交流

業訪問・交流機会提供
ツチング会、企業向け研修
のPR ●就職情報誌作成

各分野ごとの取組（農林水産業、建設業、医療従事者等）



きている青森県についての理解促進

県内企業への理解を深める機会の提供

向けセミナー ●保護者・教員対象の県内企業見学会、採用担当者との交流会
●県内定着プロモーション支援ツール（教員用）作成

向上、雇用環境の向上

企業説明会等PR機会提供 ●経営者の意識醸成講演会 ●採用ノウハウ習得支援
アイデア注入による採用スキル向上支援 ●誘致企業の求人活動への同行

県民一人ひとりの豊かな生活を支える「生業」づくり

コラム① 青森を知ってみよ、故郷には添うてみよ

現在、青森県の若者の多くは、県外へ流出してしまっている状況です。2019年度の高校卒業者の進路状況を見ると、全体の4割が、県外での進学や就職を選択しており、県内を選択する人の割合を上回っています。ふと考えてみると、学生時代、青春を共にした多くの仲間たちも、青森県を出て生活しているという事に気づかされ、若者の県外流出を身をもって感じています。

「地元の青森には仕事になさそうだ」「東京など県外へ行った方が青森にいるよりも楽しそうだ」。進学や就職を機に青森県外へ向かう人の中には、そのような先入観がある人もいないではないでしょうか。しかし、県外に出て暮らしている友人の中には、「青森さ帰りたい」と話す人も少なくありません。「せばだば早く帰ってくればいいべな」。地元に残る選択をした側からするとそう思っていますが、一度県外へ出て、そこでの生活基盤が出来てしまえば、よっぽどの決意がない限り、「青森に帰る」という選択はなかなか難しいのかもしれない。「いつか青森に帰りたい」。目に見えてわかるほど若者が流出してしまっている今、その「いつか」という漠然とした未来に、活気ある青森県の姿はあるのでしょうか。

このような状況を抜け出すためには、まず、若者自身が自ら情報を探すことが重要ではないかと思えます。例えば、本県の取り組みには、『ミライボイス』や『アオモリジョブ』等の青森県の企業を幅広く伝えているウェブサイトや、『シューカツアオモリ』といった県内の就職関連イベント等を紹介する専用アプリ等があります。このような情報媒体を活用しながら、青森の仕事を知るだけでも視野が広がるはずです。そうすることで、進学を機に青森から離れてしまった人や、地方や東北で暮らしたいというUIターンを希望する人も、「働く場所を青森に」と考えることができるのではないのでしょうか。

また、皆さんは、青森県が「女性が活躍しやすい」環境であることを知っていますか。なんと、青森県の県内企業数に占める女性社長比率は10.6%で、全国第1位なのです（平成30年度：帝国データバンク『女性社長比率調査』）。さらに、女性管理職の割合も20.3%と高く、全国第2位となっています（平成29年度：内閣府『男女共同参画白書』）。意外にも、青森県には、女性が輝くためのチャンスがたくさんあるのです。

インターネットやSNSが普及している今、都会と地方の情報格差はほとんど無くなってきており、世の中で何が流行しているのかは、どこにいても確認することができます。最近では、青森県内にも、SNS映えするようなスポットやお店が増えてきているし、「県内だけでは物足りない！」という人でも、新幹線や飛行機などを使って、いつでも県外へ遊びに行くことができます。

さて、皆さんにとっての青森は、本当に「何もない」場所でしょうか。若者や女性たちにとって、青森が「恋しき故郷」ではなく、「暮らす・働くための場所」になれば、青森県の未来はもっと明るいものになるのではないのでしょうか。